

科目区分：人文・社会科学科目

授業科目名	人間と文化（哲学）					学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture（Philosophy）							
担当 教員名	高橋 眞司	単位数	2単位	必修 選択	選 択	後期	水曜日	2校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>哲学は2500年の長い伝統をもつ最も古い学問の一つである。そして、そこからさまざまな学問と科学が生まれていった「母なる学問」といえる。また、現代において自然と人間・社会の認識についてたえず配慮してやまない「父なる学問」ともいえる。哲学は宏大深遠であり、それだけに学び甲斐もあるが学ぶ困難も大きい。</p> <p>講義では哲学史の大切な節目を学びながら、現代に生きる私たち自身の思想的課題、実存、神、死と生、愛、時間、笑いとほゝ笑い、などにも触れてみたい。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>テキスト：デカルト『方法叙説』、サルトル『実存主義はヒューマニズムである』</p> <p>参考書：Nigel Warburton: Philosophy: The Classics. Routledge, 1998. 2nd ed., 2001.</p> <p>辞典：粟田賢三・古在由重編『岩波哲学小辞典』1979.</p> <p>Simon Blackburn: Oxford Dictionary of Philosophy. Oxford U. P., 1996.</p> <p>A.R. Lacey(ed.): A Dictionary of Philosophy. Routledge, 3rd ed., 1996.</p> <p>Thomas Mautner(ed.): The Penguin Dictionary of Philosophy. 2000.ほか</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法				教 員 研 究 室			
全 学 部	講義への主体的参加、論述、期末試験を総合的に勘案して評価する。							
授 業 計 画								
<p>序 章 哲学を称えて</p> <p>第1部 哲学の基礎</p> <p>第1章 哲学の方法</p> <p>第2章 哲学の第一原理</p> <p>第3章 神の存在証明</p> <p>第4章 信仰</p> <p>第5章 哲学の諸命題 哲学者たち</p> <p>第2部 哲学の展開</p> <p>第1章 現象学 現代哲学の方法</p> <p>第2章 時間</p> <p>第3章 愛</p> <p>第4章 死と生</p> <p>第5章 実存</p> <p>終 章 総括と展望</p>								
<p>オフィスアワー（質問受付時間）：水曜日昼休み及び3校時</p>								